

第7章 精神保健福祉

精神障がい者が地域で生活していくためには、①医療を継続し、②病状が悪化した際の速やかな医療機関受診支援、③生活する上での困難さへの支援、そして④地域社会での見守る体制が必要である。

国の方針により、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築が推進されているが、依然として精神障がい者の生活問題解決の方法として「入院」が挙げられることも少なくない。保健所では、精神障がい者が安心して地域で生活できるようにするために、上記4点の課題について活動をしている。

精神障がい者やその家族への直接的支援として、精神保健相談や家庭訪問、また緊急対応などを行いながら、当事者が抱える問題が大きくなる前に対処できるよう支援を行っている。さらに、医療によって精神症状が改善された後は、障害福祉サービス事業所での作業や病院デイケア、地域活動支援センターでの仲間との交流を通して、自信の回復や、生活能力を高められるよう、関係機関と連携して切れ目のない支援を行うとともに、連携体制の構築をはかっている。

このように精神疾患は、治癒ではなく寛解状態を維持し、病気によって失った自信や生きがいを再獲得することで、治療中断や悪化を食い止めることができる。当事者や家族だけでなく、地域全体で見守る体制をつくることが必須であり、保健所だけではなく多機関との連携を強化し、引き続きネットワークづくりなどを推進していく。